

Top Interview

2018年度は過去最高の業績を達成。
さらなる継続安定成長を実現し
トータルライフサポート企業への進化を目指します。

01



代表取締役会長

野呂 裕一

2018年度は、2017年度に引き続き、営業収益および営業利益以下の各利益について過去最高を更新いたしました。中期経営計画(2016~2018年度)に基づいて当初の方針通りに進めた結果、3年連続増収増益の目標を達成することができました。

中期経営計画において、さまざまな改革に取り組んできましたが、その結果としてお客様からの評価が向上したことは



代表取締役社長

播島 聡

もっとも喜ばしいことでもあります。特に公益社では、お客様の声を反映した「ベストサービス基準」を独自に策定し、サービスチェックや業務改善にあたるなど、お客様に寄り添った品質重視の取り組みが功を奏したと考えます。

また、2014年から着手した3つの大規模会館のリニューアルにつきましては、「公益社 天神橋会館」を2015年6月に、「公益社 西宮山手会館」を2016年8月に、「公益社 枚方会館」

を、2017年8月に建て替えオープンしたことで、事業所や事務所の移転・集約を含めた外部支払いコストの削減に成功、資産の有効活用を実現し利益改善効果を生む結果となりました。当初より取り組んできたグループ内のBPR(業務の全体見直し)と、継続課題であった「基盤整備」を完了し、この10年間で利益を生み出す体質への変革を果たせたと自負しております。

さらに「ライフエンディングサポート事業」につきましては、お客様のニーズに合ったサポートを提供するために葬儀後のサービスの幅を広げましたところ、お客様のご利用が順調に増えております。

「葬儀事業の積極的な営業エリアの拡大」につきましては、当初3年間で17会館のオープンを目標に設定しましたが、結果的には10会館の出店と未達に終わりました。しかしながら、出店の数を追うことよりも立地や投資対効果などの「質」を追求することを当グループの出店方針としており、今後も「質」重視の姿勢は変わりません。

また、2016年以降に2つの新規事業を立ち上げ、ラーメン店事業は「うまい麺には福来たる」というブランド名で現在、「西大橋店」「西中島店」「天五店」の3店舗を運営。一方、介護事業ではポシブル医科学(株)様とのフランチャイズ契約のもと、リハビリ特化型デイサービス施設「ポシブル箕面牧落

(大阪府箕面市)」「ポシブル池田(大阪府池田市)」が稼働し、専門職による利用者様に合った機能訓練プログラムを提供しています。

以上、総じておおむね計画通りに事業展開を成しえたことは、次に続く3年の新たな躍進につながると確信しています。

グループの進化を実現するために 経営理念を10年ぶりに刷新

今期から取り組む新中期経営計画(2019~2021年度)の発表に先立ち、経営環境の変化に合わせて10年ぶりに経営理念を見直すことになりました。新経営理念では今後の燦ホールディングスグループの方向性を示す「ミッション(使命)」「ビジョン(未来・目指す姿)」「バリュー(価値観)」の3項目を定めています。

ミッション「人生に潤いと豊かさを。よりよく生きる喜びを。」は、葬儀事業からライフエンディングステージのトータルライフサポート企業へ、さらには新規事業の展開へ、と新しい価値の創出に挑戦しつづけるグループの進化への思いを込めたスローガンです。私たちの商品やサービスを通して、お客様や地域の人々の人生に潤いと豊かさを感じてもらい、よりよく生きる

喜びを感じてもらい、それこそが当社が社会に果たすべき使命だということを表現しています。

本ミッションを完遂するために、私たちは「人の心に寄り添い、人生の喜びと幸せを創出する企業」「新しい価値、高い付加価値を創造し、持続的に安定成長していく企業」「一人ひとりが情熱を持って、主体的に行動し挑戦しつづける企業」というビジョンを掲げて新たな気持ちで業務改善に取り組んでまいります。

人生を主体的によりよく生きること、成長していくこと、そして、変化を恐れず挑戦しつづけること、進化していくこと——これらを燦ホールディングスグループのバリューとして位置づけています。

この新経営理念をグループの全員が共有することこそ、前進する力、今後の成長の大きな推進力になると考えています。

新たな中期経営計画を進め 継続的かつ安定的な成長を実現

超高齢社会と言われて久しくなりましたが、今後お亡くなりになる方の数は2040年をピークに増加することが予測される一方で、少子化が進み、日本の人口は減少傾向となっ

ております。こうした社会情勢は葬儀における価値観にも影響し、近親者だけで行う家族葬や無宗教葬、一日葬など葬儀のスタイルが多様化し、同時に葬儀の小型化傾向が続いております。

また、自社で葬儀施行を行わないマッチングサービス企業が参入し、熾烈な競争状況を呈していますが、ネットを通じた情報の中に誤りが散見されることは、由々しき事態だと感じています。

葬儀の小型化傾向による葬儀単価の下落傾向は止まらず、さらには、当社の主な営業エリアにおきましても他社葬儀会館の新規出店が活況であり、事業環境は依然として厳しい状況です。

3年連続増収増益をもたらした成果と、なお解決すべき課題を踏まえたくえ、次の3年間をどのように舵取りすべきか、その指針となるのが以下の中期経営計画(2019~2021年度)です。

【新経営理念の浸透】 新中期経営計画を確実に完遂するためには、指針となる新しい経営理念の全社的浸透が最重要項目であると考えています。

【人財力の強化】 燦ホールディングス内に「人財教育部」を新設。人財こそ競争力の源泉であると考え、人材育成の体制をより強化し、外部人材の採用による人材確保も積極的に行ってまいります。

【サービス品質の向上】 徹底したこだわりをもってサービス品質の向上に取り組みます。お客様に喜ばれる高品質で付加価値の高いサービスの提供こそが同業他社との差別化につながると認識しています。

【業務効率の改善】 主として、お客様の目に見えないバックヤードでの業務について、内容や役割の見直し、IT化等により業務改善を図り、生産性の向上に取り組んでまいります。

【ライフエンディングサポート事業の拡充】 ライフエンディングステージにおけるトータルライフサポート企業への進化を目指して常にチャレンジをし、葬儀施行以外のサービスの拡充を図り、広範囲でお客様をサポートしてまいります。

【新規事業の収益力強化】 既存のラーメン店事業および介護事業については、ノウハウの蓄積を行いながら、収益力を高めてまいります。そして、新たな収益の柱となる事業の創出を目指します。

【葬儀事業の積極的な営業エリアの拡大】 東西の大都市圏を中心に、よりスピード重視のエリア拡大を計画しています。やみくもな拡大路線は取らず、マーケティングに基づいた投資対効果を意識した新規出店を進めます。

【リスクマネジメントの強化】 会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図るためにも、引き続きリスクマネジメント

を強化します。潜在リスクを想定・分析し、適切なリスクテイクの意思決定を行います。

以上の8つの項目を新中期経営計画に掲げ、さらなる挑戦と成長を目指して邁進してまいります。

ライフエンディングステージにおける トータルライフサポート企業へ

新たな中期経営計画に基づくこれからの3年間は、今まで以上にサービス向上を図りながらライフエンディングサポート事業の拡充を進め、他社との差別化をより鮮明に打ち出していきます。お客様の人生に潤いと豊かさを提供し、よりよく生きる喜びをお客様と分かち合いながら、ライフエンディングステージにおけるトータルライフサポート企業へと進化いたします。

私たちはお客様の気持ちに寄り添うスタッフの思いを軸に、常にお客様の満足を追求しながら事業を展開しております。また、業界では数少ない上場企業として責任と誇りをもって投資対効果を重視した経営を推進してまいりました。この姿勢こそが企業価値および株主価値を向上させ、配当を中心とした株主様への還元につながるものと考えます。株主の皆様には、今後も変わらぬご支援を賜りたく、改めてお願い申し上げます。